



# 全国学力・学習状況調査結果報告「前期課程」

## 教科に関する調査の結果

### 県・全国平均との比較

平均は、国語・算数とも県・全国より低い結果となりました。しかし、本校は少人数のため、「平均」という観点からのみで学級全体の傾向をつかむことは難しいと考えます。児童一人ひとりの結果に目を向け、それぞれの課題を改めて確認し、学習改善や学習意欲の向上に努めていきたいと思ひます。

#### 【本校と県・全国の平均正答率との比較表】

	県平均との比較	全国平均との比較
国語	△	△
算数	△	△

※ ◎・・・県・全国より高い  
○・・・県・全国と同程度  
△・・・県・全国より低い  
と表記しています。



### 国語

全体的な正答率の平均を比較すると、本校は、県・全国の平均を下回る結果となりました。各設問ごとに見てみると、県・全国の正答率が低い問題は本校の正答率も低く、県・全国の正答率が高い問題は本校の正答率も高くなるなど、問題に対する回答状況の傾向は似通っています。しかし、「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるか」を問う問題や「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるか」を問う問題などでは、県・全国よりも高い正答率を示しています。特に「目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見付けることができるか」を問う問題では、県・全国平均を大幅に上回る結果となっていました。これらは「思考力・判断力・表現力」の資質に分類される「読むこと」に関する力を発揮させる問題です。日頃から読書に親しんだり、新聞の活字に触れてきたりした経験が生きたものだと考えられます。また、こうしたことから、本校児童が、一概に県・全国の児童と比較して劣っているとされるわけではなく、得意分野できちんと力を発揮できることも示されたと考えます。一方で、「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるか」を問う問題においては、県・全国平均と比較して大幅に正答率を下げています。「書くこと」に関する力を要するこれらの問題での低い正答率は、今後の国語学習における工夫が必要な部分を示していると言えます。調査全体を通じて、選択式・短回答の問題と比較すると記述式の問題の正答率が下回っていることから、思考した事柄や読みとったことなどを正しく記述していく力を育成していくよう今後は指導を工夫していきます。

### 算数

県・全国平均と比較して大きく差が開いたのは、「図形」領域の「台形の意味や性質について理解しているか」を問う問題でした。この問題は「知識・理解」を問う問題で、既習内容をきちんと定着させていれば回答できる問題です。今後の学習で改めて確認をする必要性を感じました。また、同じく「図形」領域の「三角形の面積の大小を判断し、その理由を記述する」問題や、「数と計算」領域の「( )を用いた式や、加法と乗法の混合した式が、どういった場面で使われるか」を読み取る問題などにおいて、県・全国平均を下回る結果となっていました。これらの問題は「思考力・判断力・表現力」が問われる問題で、数や言葉を使って説明することが求められません。計算式を単に解いていくような力とは異なり、実生活に即した算数の力が求められます。また、既習事項を生かした活用能力も問われます。算数の授業のみならず、様々な場面での資質向上を図る必要性を感じました。一方で、国語と同様に、県・全国平均を上回る問題も見られました。「伴って変わる二量」に関する問題や「正三角形の性質」を問う問題、「一の位が0の2位数同士のかけ算」など、多くの問題で、県・

全国平均を上回る結果が見られました。いずれも「知識・理解」の分野における問題であるため、これまで学んできた定義や知識を生かすことができることも分かりました。また、これらの問題が選択回答問題ではなく、短いながら言葉や数で回答すべき問題であったことも、子供たちがきちんと問題に向き合っていたことを示す結果だったと考えます。今後は、どの部分がどのように間違っていたのかを、個々に応じて解決していくことを目標に、授業の中で自らが考え、発表や説明、教えあいなどを展開する活動を通して、生きた算数の力を伸ばしてこうと考えています。

## 児童質問紙に関する調査の結果



### 学校生活

『学校に行くのは楽しいと思いますか。』『自分と違う意見について考えるのは楽しいですか。』『友達関係に満足していますか。』の質問に対して、肯定的な回答をした子の割合が、全国平均より高い結果となりました。行事や普段の生活、授業を通して、友達と関わり合いながら楽しく学校生活を送れていることがわかります。また、『人の役に立つ人間になりたいと思いますか。』『先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。』の質問に対しても、肯定的に回答した子が多くいました。特に『先生は、分かるまで教えてくれていると思いますか。』では全員が「当てはまる」と回答していました。思いやりの心を持ち、先生方との関わりも良好であることがわかります。今年、中高等部で教科担任制を取り入れて2年目です。これからも様々な先生との関わりで、充実した学校生活を送れるようになってほしいと思います。一方で、『1日にどのくらい読書をしますか。』や『学校図書館や地域の図書館をどのくらい利用していますか。』の質問では、「10分より少ない」「ほとんど行かない」と答えた子が目立ちました。読書については、たくさん読む子とあまり読まない子の差が大きいです。学校の図書室利用を工夫して、日頃の読書習慣が身につくようにしたいと思います。

### 学 習

『国語の勉強は好きですか。』の質問に、肯定的な回答をした子の割合は、県・全国に比較して大幅に高かったです。国語を『大切だと思う。』『将来、社会に出たときに役立つと思う』と回答した子も高く、関心を抱きながら学習に取り組んでいることがわかります。今後は、子供たちの高い意欲を生かした授業改善に努めたいと思います。算数についても同様に、『算数の勉強は好き。』『大切だと思う。』『将来、社会に出たときに役立つと思う。』の質問に肯定的な回答をした子の割合も高い結果となりました。また、『休みの日に、1日どのくらい勉強しますか。』の質問では、最も多く答えたのが「1時間より少ない」でした。来年からは後期課程が始まります。家庭学習の習慣を身につけ「自分の課題は何か。」「どうやったら目標を達成できるか。」などを明らかにできるよう工夫していきたいです。



### 地域・家庭

『今住んでいる地域の行事に参加していますか。』『地域をよくするために何をすべきか考えることがありますか。』に対して、肯定的な回答をした子がほとんどでした。子供たちが、土肥小中一貫校の児童として地域社会と関わり、地域に支えられて学んでいることを自覚していることが分かりました。また、『総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表している』と回答した子の割合が90%以上でした。本校の特色である「とびうお学習」の充実を図り、これまで以上に地域や社会に目を向け、地域貢献への意識をさらに高めていきたいです。朝食の摂取、就寝時刻、起床時刻などは、県や全国とほぼ同じ結果で、正しい生活習慣が概ね定着していることが分かりました。家庭での規則正しい生活習慣が、学校での意欲的な活動につながります。これまで同様に、子供たちを笑顔で送り出していきますよう、今後ともご協力をよろしくお願い致します。